



みんなの水泳……日々徒然

東京2020に向けて ～いよいよ2020年～

▶はじめに

前回は、2019年ロンドンWPS世界選手権の様子や東京2020パラリンピックのスケジュールなどについてお伝えしました。

今回は、東京2020パラリンピック本大会までの国際競技会や、パラ水泳に独特な競技規則についてお伝えしたいと思います。

▶2020年パラ水泳の国際競技会

2019年は2月から6月までに7つのワールドシリーズ大会が、また9月に英国ロンドンアクアティクスセンターで2019年ロンドンWPS世界選手権が開催されました。

2020年もワールドシリーズ大会は7つ、別表のとおり開催が予定されています。

●2020年パラ水泳のワールドシリーズ

2/14-16	豪州	メルボルン
2/27-3/1	イタリア	リニャーノサビアッドーロ
3/25-28	ブラジル	サンパウロ
4/9-12	英国	シェフィールド
4/16-18	米国	インディアナポリス
5/1-3	シンガポール	
6/18-21	ドイツ	ベルリン

また、2020WPS欧州オープン選手権がポルトガルのフンシャルで開催されます。

2018年からWPSが実施しているクラス分けの見直しは2019年で一段落してはいますが、RステータスやR2020ス

ティタスの選手は、東京2020パラリンピック大会に出場するためには、CまたはR2021以降のステータスが必要です。2020年ワールドシリーズ大会または欧州オープンに出場し、クラス分けを受ける必要があります。東京2020パラリンピック大会の出場枠獲得については2020年1月31日にWPS公認タイムの有効期間が終わるので、その後WPSから枠配分の発表があります。2019年ロンドンでのWPS世界パラ水泳選手権分の枠配分と合わせて、東京2020への準備が着々と進められていきます。

各国は、誰がいつまでにクラス分けを受ける必要があるのか、優先順位はどうか、そのために必要な手続きは何か、入念に準備する必要があります。

▶東京2020パラリンピック大会の水泳競技

東京2020パラリンピックにおける選手枠数、実施種目、枠配分方法、MQS（標準記録）については既に発表されています。〈参考〉選手枠の配分方法などは、『Tokyo2020 Paralympic Games Qualification Regulations』に記載されています。
<https://www.paralympic.org/sites/default/files/2019-12>

/2019_12_03%20Tokyo%20QG.pdf（最新版は2019.11月版）

競技スケジュールも発表になっており、8月26日（水）～9月4日（金）の10日間、午前に予選が、午後に決勝が行われます。

午前セッションは9:00開始、午後セッションは17:00開始です（リオ2016大会はそれぞれ9:30、17:30でした）。

予選は概ね2時間半のセッションとなることが発表されています。通常、予選は淡々と競技が進められます。

決勝はレースとメダルセレモニーが行われますので、概ね3時間半～4時間のセッションとなる予定です。決勝セッションでは、毎日13種目～16種目でメダリストが生まれることになります（予選、決勝ともに、日ごとに終了時刻は異なります）。

競技日程は下記のアドレスの「パラリンピック競技スケジュール」の一覧表から、水泳の各日程をクリックしてご確認ください。その日に実施される午前と午後の各セッションの種目と表彰のスケジュールが掲載されています。

<https://tokyo2020.org/jp/games/schedule/paralympic/>



パラ水泳の欧州選手権

通常、WPS欧州選手権は4年に1回開催され、欧州地域の選手のみ出場可能なわけですが、この「欧州オープン」選手権は欧州地域以外の選手も出場が可能です。

このフンシャルはポルトガルの首都リスボンから約1000kmの北大西洋上にあるマデイラ島の街ですが、2021年のWPS世界パラ水泳選手権（2021年9月25日～10月1日）がこのフンシャルで開催されることが2019年9月に発表されています。

私は2016年に開催された2016WPS欧州オープン選手権にクラシファイアとして参加しましたが、日本からマデイラまでの道のりが予想以上に遠かった記憶があります。島の空港は横風の強いところがあり、世界の中でも「ゴーアラウンド」（着陸をやり直すこと）が多い空港のひとつとのことで、2016年も大会に来る人たちの空港送迎は変更しに次ぐ変更で、とても大変そうでした。

が、いったん島に到着すると、そこはゆったりとした時間が流れるのんびりとした自然豊かなリゾート地で、とても過ごしやすかったです。サッカー選手のクリスティアーノ・ロナウドの故郷としても有名なようです（空港の名前には彼の名前がついています）。



フンシャルのプール



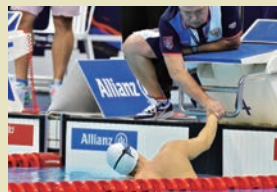
天井が木製になっているのが大きな特徴

パラ水泳～ルールあれこれ～

パラ水泳の競技規則は、FINA（国際水泳連盟）の競泳競技規則に基づいて、障がいゆえにできないことなどについては、障がいゆえに失格とならないように、追加の規則を設けています。どの規則をどう適用するかについては、クラスによってルールで定められているものや、クラス分けの際に個々の選手に付与されるCoE（Code of Exceptions）と呼ばれるものがあります。



介助者に身体を支えてもらって飛び込む選手



スターティンググリップを握ることができない選手の介助



介助を受けたり、器具を使ったりしてスタートする背泳ぎ



スターティンググリップにベルト状の器具を取り付けてスタートする選手



S11クラスのタッピング。各国とも先端の形状や材質、長さを工夫しています



黒塗りのゴーグルが光を通していないか、確認する審判

H	Hearing Impairment – light or signal required	聴覚障害を併せ持つ選手に対して、スタート合図を知らせるためのライトが必要
A	Assistance required	スタートや入退水に介助が必要
E	Unable to grip for backstroke start	背泳ぎのスタートにおいてスターティンググリップを握ることができない（ので、プールの縁などをつかんでよい）
Y	Starting device	スタートを介助するための器具などを使う
T	Tapper	タッパーが必要（S11は必須）
B	Blackened/opaque goggles	黒塗り／不透明のゴーグルを着用しなければならない

1	One hand start	背泳ぎのスタートにおいてスターティンググリップを片手で握ってもよい
2	Breaststroke – One Hand Touch	平泳ぎにおいて、片手でタッチ
3	Breaststroke – Simultaneous Intent to Touch	平泳ぎにおいて、両手でタッチする意志を見せて片手でタッチ
4	Butterfly – One Hand Touch	バタフライにおいて、片手でタッチ
5	Butterfly – Simultaneous Intent to Touch	バタフライにおいて、両手でタッチする意志を見せて片手でタッチ
7	Part of upper body must touch	上半身の一部でタッチ
8	Right foot must turn out	平泳ぎにおいて、右下肢はノーマルなキック動作をしなければならない
9	Left foot must turn out	平泳ぎにおいて、左下肢はノーマルなキック動作をしなければならない
12	Leg drag or show intent to kick	平泳ぎにおいて、ノーマルなキック動作をする意思を見せる、または下肢をひきずる
+	Butterfly kick is able to be performed (illegal in Breaststroke)	バタフライキック動作をすることが可能